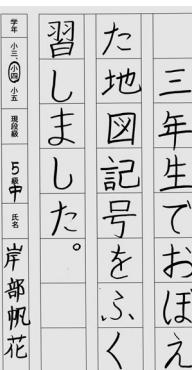
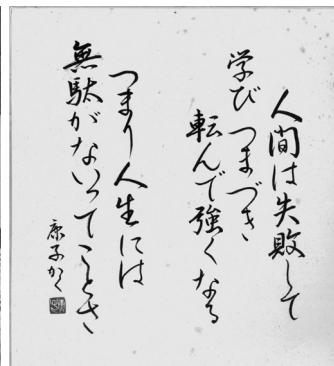
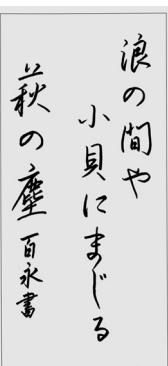
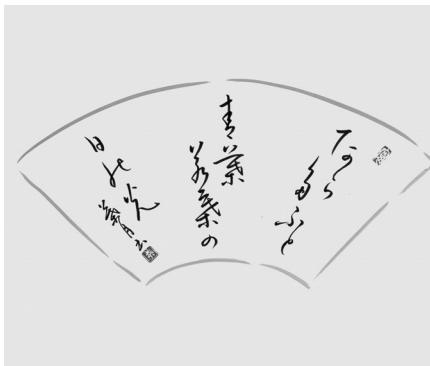


書塾の仲間たち

第 233 回

藤田書道教室（大阪府豊中市）



わが教室の子どもたちはいつも元気な挨拶で教室へやってきます。この子たちは手書きの文字文化の良さを伝える後継者です。集中力を養い、大きな夢や目標を持ち、心豊かに育つてほしいと心から願っています。

いつの間にか、仲間の輪が大きく広がりました。皆様に支えられ、今まで続けることができ、感謝に堪えません。そして何よりも「継続は力なり」。続けてこそ「道」であると考えています。

「急がず、止まらず、一步一歩」。これが私のモットーです。

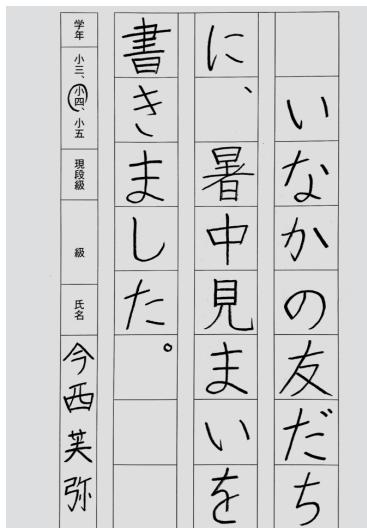
藤田書道教室 藤田 寛子（芳舟）
※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

●書塾からひとこと●

大阪府豊中市の自宅の一室でうぶ声をあげた「お習字の教室」は、月刊「書写書道」創刊号（平成三年）以来のご縁で、今では「書道教室」へと成長いたしました。

昭和六十二年度の第二十四回全日本書初め大展覧会では日本武道館大賞、翌年には日本武道館会長賞など、これまで多くのすばらしい賞をいただき、受賞した本人は勿論のこと、私にとっても大変大きな自信となりました。

当時の子どもたちも、今では社会の第一線で活躍しております。既に書道の指導者として第一歩を踏み出した者や指導者を目指して競書の出品や昇段試験の受験に励む者など、それぞれ大きな目標に向かって日々研鑽を重ねています。彼らは「書写書道」で学んだ実技や知識が、社会人となり、日常生活の中で大いに役立っていると口を揃えて申しています。



一文字ずつ、ていねいに書けるよう練習します

東京都江東区立第五砂町小学校四年

今西 美 弥
いまにし ふみ

私は、一年生の時にこう筆を習い始めました。

初めのころは上手に書けなかったので、先生にアドバイスをもらい、同じまちがいをしないよう気をつけて書きました。だんだんとほめられることも多くなってきたため、さらにお手本通りに書けるように練習しています。

二年生の時に毛筆も習い始めました。えん筆と筆は持ち方がちがうので、むずかしいけれど、何回も書いていたら、なれできました。はねやはらいが上手に書けなかつたときは、先生が書くところを見て、同じように書くように努力しています。今では、始めたばかりの時よりも、はねやはらいが上手に書けるようになったと思います。

三年生の時に、自分のこう筆作品の写真が「書写書道」にのつたときは、うれしくて、またのりたいなと思いました。

私は、まだ小学校で金しょうをもらったことがありません。あと三年間で金しようをもらえるように、ていねいに書いて練習したいと思います。

こう筆も毛筆も、先生が書いているように、一文字ずつていねいに書き、もっと先生にほめられるようにがんばりたいです。

私と書写書道 第233回



僕の夢は書の文化を世界に発信することです

千葉県市川市立第二中学校一年 須賀 真都
すが まなと

国分書写書道教室に通い始めて八年が経ちました。僕は将来、ICT（情報通信技術）支援員になりたいと思っています。その一方で、ICTの普及により、手書きで文字を書く機会が減って、書写・書道の文化がなくなってしまうのではないかと心配しています。

書写の楽しさと難しさを教えてくれた先生や六年間一緒に書写を楽しんだ同級生、後輩たちのおかげでこれまで八年間、途中で止めずに続けることができました。本当に感謝しています。そして、書の文化を広めたいという夢を持てたことは何よりの喜びです。

僕は今、SNSを利用して、全世界に「書写書道」の文化を広め、発信してみたいと考えています。このような活動を通して、ICTの普及した未来でも、毛筆や硬筆で文字を書く文化や歴史を、一人ひとりが知つて参加できる機会を作りたいと思っています。この理想を実現するためにも、まず字についてよく理解して、たくさん勉強しようと思います。

近い目標は、次の日本武道館書初め席書大会への出場です。大会に向けて、今は毎週の書写書道教室での稽古に本気で取り組もうと思います。今年の春から、中学校で入部したテニス部の練習に追われる日々ですが、両立できるよう時間を調整して、これからも楽しみながら書写書道の勉強や練習に長く精進していこうと思います。

